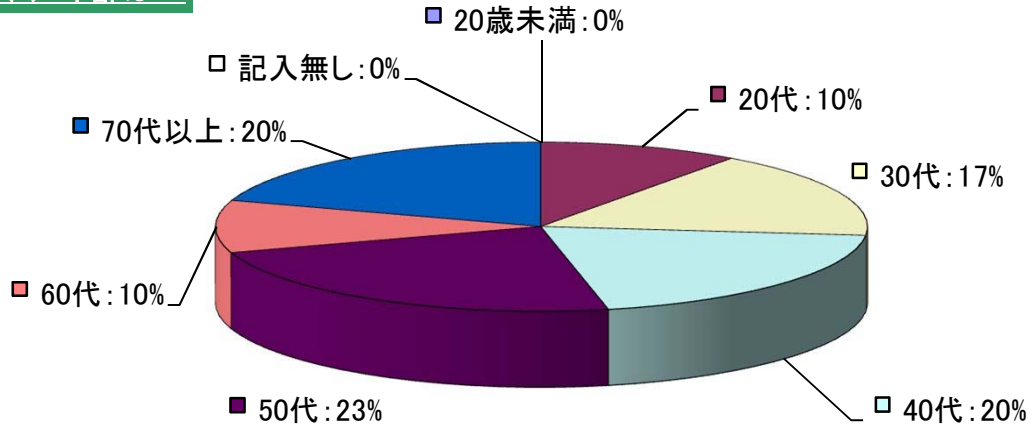


# 第38回 宮崎海岸市民談義所 アンケート結果

(第38回談義所: 2017年10月9日(月)13時00分~16時30分実施、アンケート回収数:30)

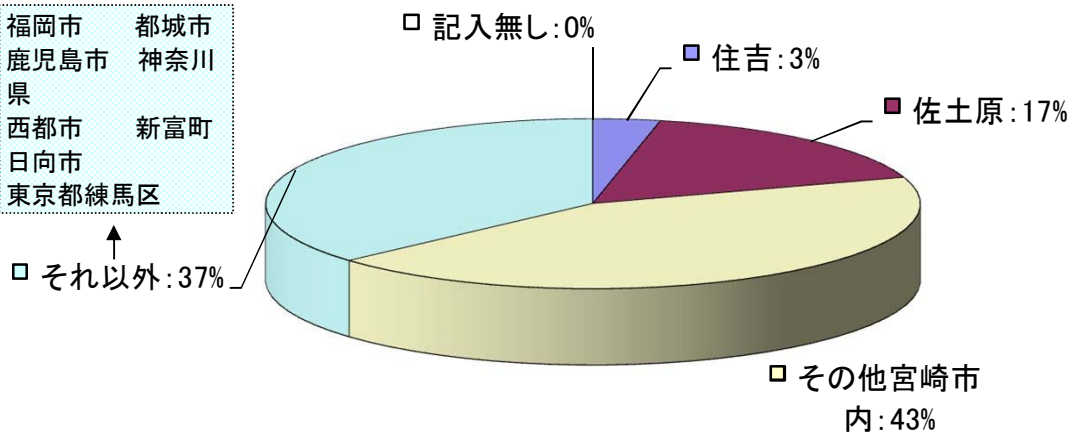
## 1. あなたのことについて教えてください

### 1-(1) 年齢は？

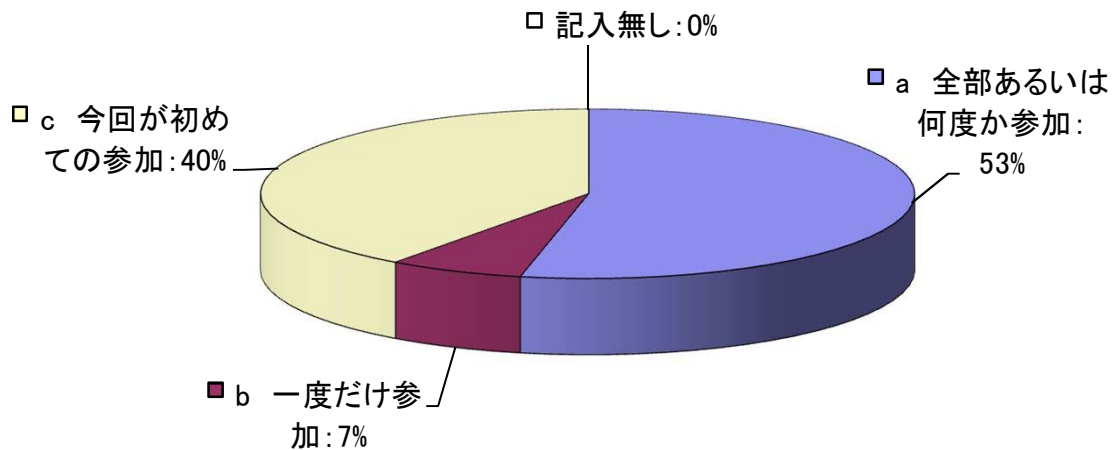


### 1-(2) 住んでいるところはどこですか？

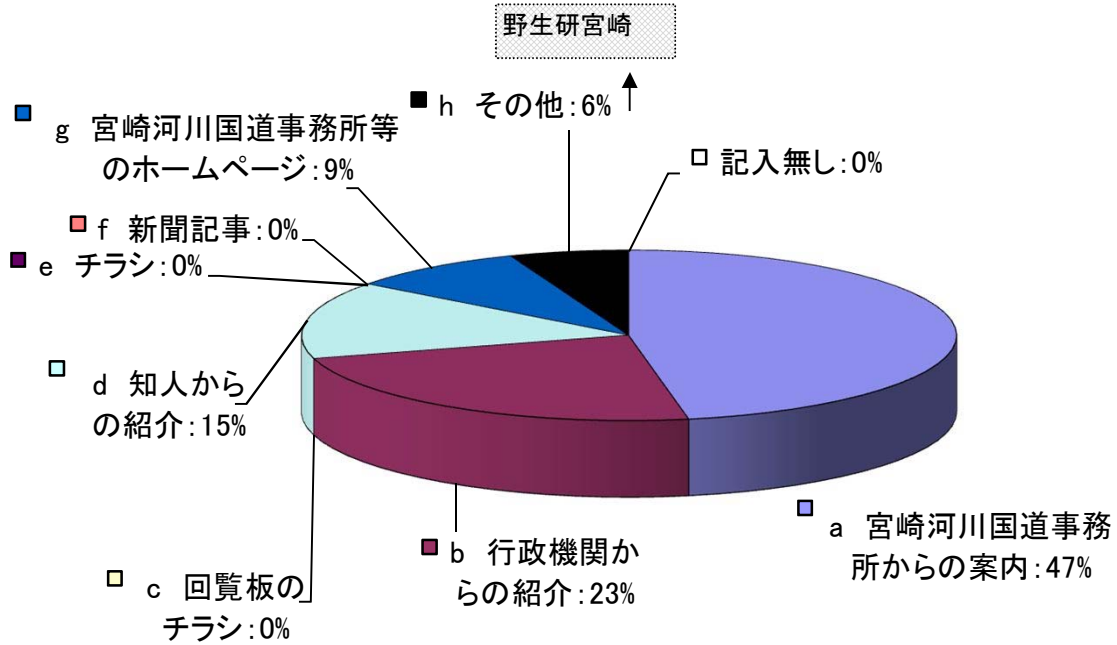
福岡市 都城市  
 鹿児島市 神奈川  
 県  
 西都市 新富町  
 日向市  
 東京都練馬区



### 1-(3) これまでに参加したことはありますか？

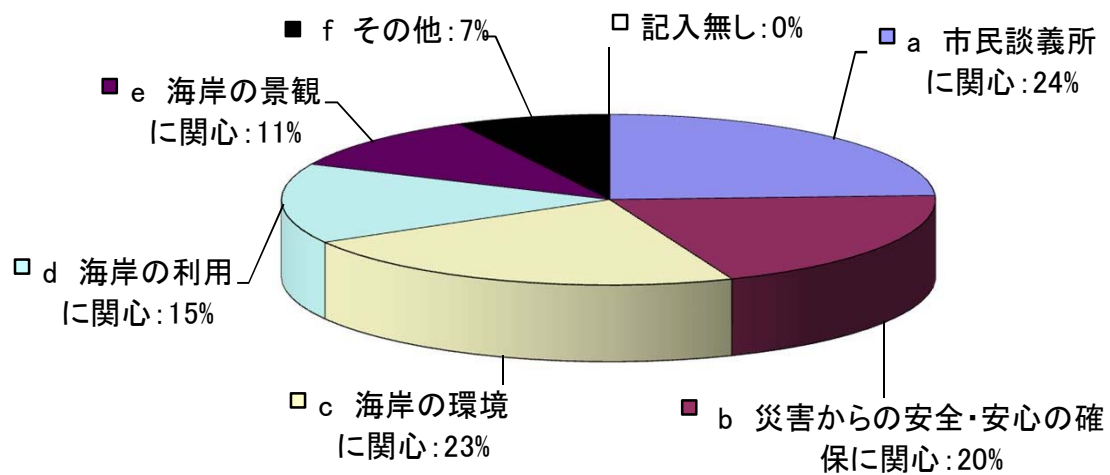


## 2. 市民談義所を何によって知りましたか？ (複数回答)

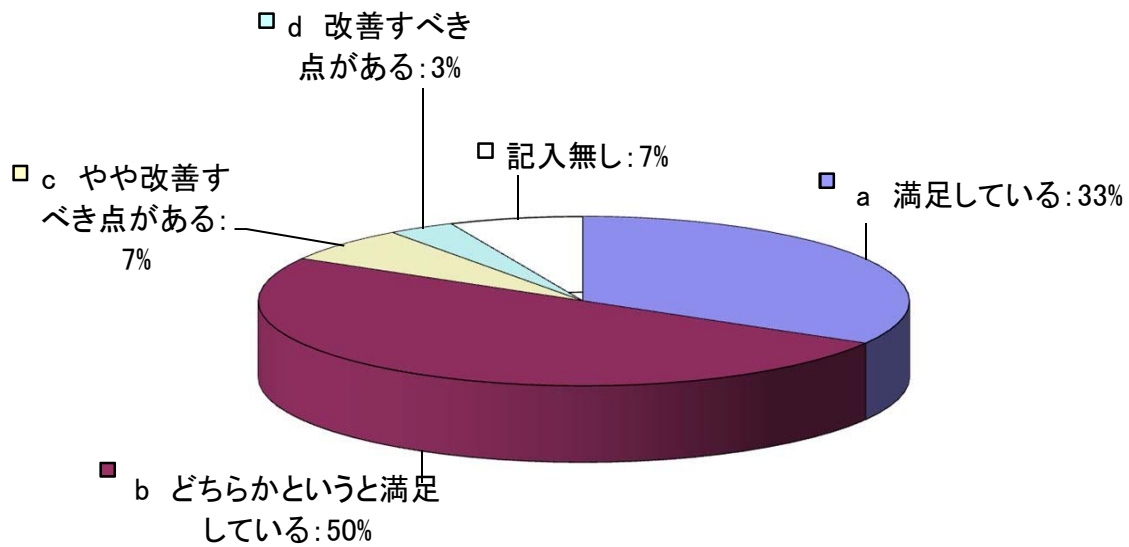


## 3. 今回参加された動機は何ですか？ (複数回答)

- ・コンサルタント
- ・施工業者として工事に関する理解を深めるため
- ・侵食対策に対する経緯や事業がどのように考えられているか
- ・行政として参加
- ・長期的な海岸の安全の確立が可能か？



#### 4. 今回の市民談義所の満足度は？ (複数回答)



##### a 満足している(理由)

- ・自由に場が進んでいる。コーディネートがすばらしい
- ・現地での情報共有
- ・保全工事を実施していますが、事業の重要性、意識を知ることができる。
- ・現地が見れて実感が湧いた。
- ・新しい知識
- ・現地でみな一緒に現状、効果を見られたのでとても有意義でした。
- ・適切な運営と参加者の信頼関係により効率的な議論ができた。
- ・今回初めて浜で聞いてもらいたいこと話せて良かった。

##### b どちらかという満足している(理由)

- ・養浜に努力されています。
- ・市民の声を素直に受け止めていただける、情報を正確に共有できる。
- ・侵食の防止作業は目に見えない部分が理解できそう。
- ・現場を見るのが良かった。
- ・みないい意見を言っていました。
- ・現場で談義が行えれば良かった。
- ・初参加だが、様々な意見での議論や実測したことで浜幅50mの実感が湧いた。

##### c やや改善すべき点がある(提案)

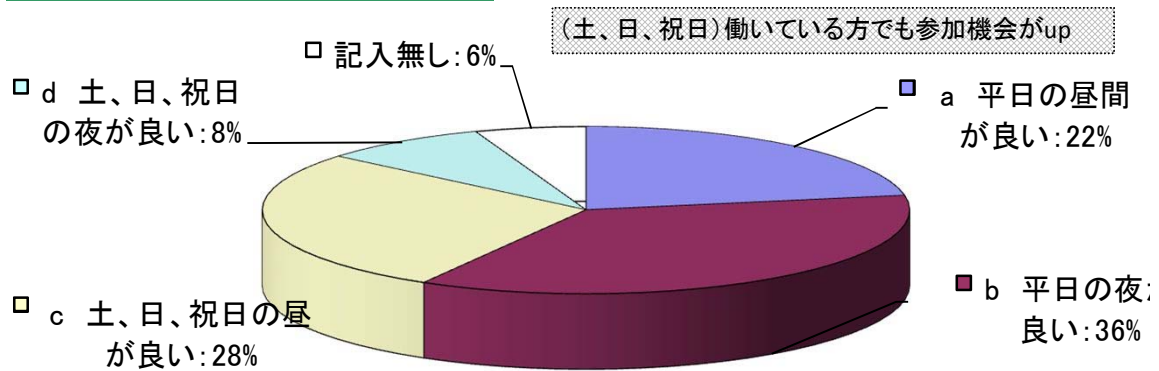
- ・グループ討議などの時間があると良い

##### d やや改善すべき点がある(提案)

- ・いろんな立場の参加者が必要

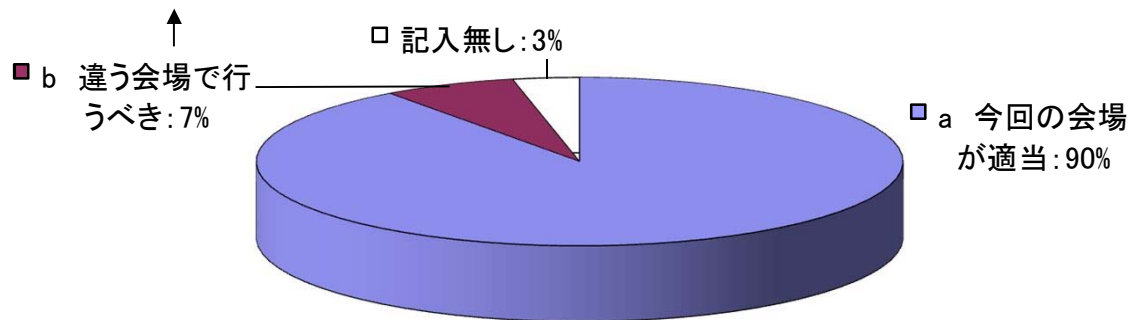
## 5. 市民談義所の運営に関して

### 5-(1) 実施する曜日と時間について (複数回答)

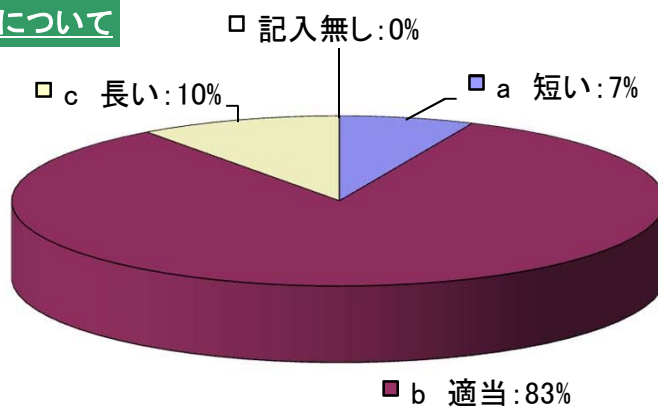


### 5-(2) 会場について

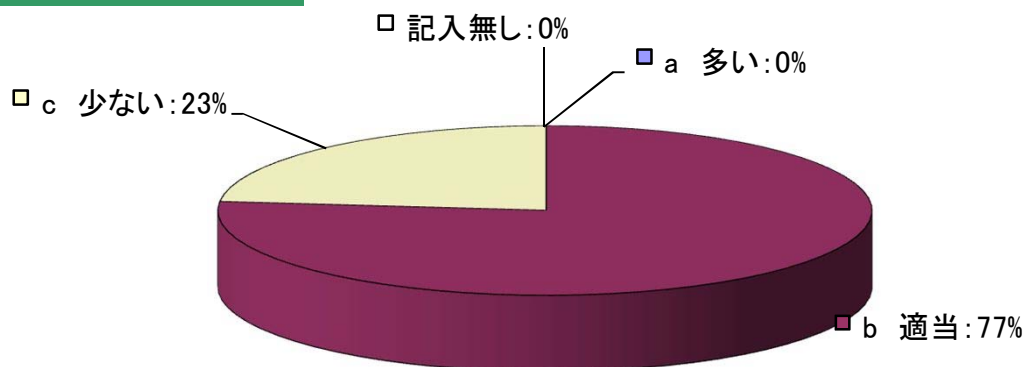
・佐土原地区と住吉地区で交互に開催してほしい



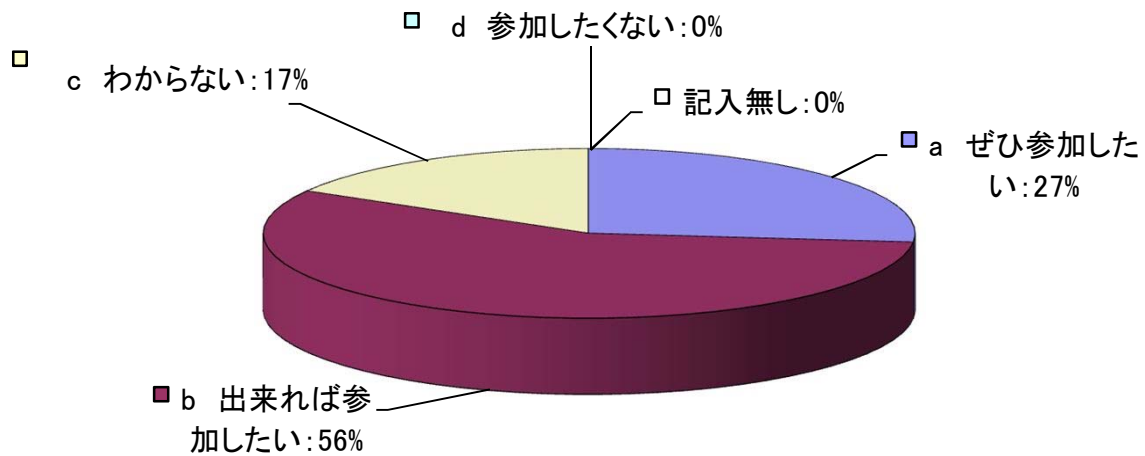
### 5-(3) 時間の長さについて



### 5-(4) 参加人数について



## 6. 次回、市民談義所への参加の意向



## 7. 次回以降の市民談義所で、談義したいテーマ等

- ・宮崎港に貯留している土砂の量の経年変化はどうなっているのか。砂浜の侵食に反比例して貯まっている土砂は減るのか？相関性は？安定化
- ・平成39年までの計画スケジュールを示してほしい。(委員長が言われる養浜なくても海浜が維持できる計画) 総合土砂管理(一ツ瀬川、自然に流下する養浜)、漁業者との話し合い状況等、具体的に説明して下さい。
- ・自然的な砂の供給(河川、海中)対策。
- ・突堤を計画通り完成するまで副作用を観測しながら施工するとのことであるが想定されることも具体的に説明願います。
- ・高波の防波について
- ・沖合(100m後)に海岸線と平行にテトラの設置は。
- ・宮崎海岸線、内陸の環境保全をどうするか。
- ・自分は野生研(アカウミガメ調査隊)の代表で来ているので、何か発表すべきことがあれば何でも話します。
- ・市民利活用、自然観察などすばらしいロケーション、環境を生かした取り組みが色々できそうです。
- ・ともかく砂が北から南に移動するのが問題なので、すぐに突堤をテトラポットで三か所築いてもらいたい。(大炊田前、石崎前、シーガイア前)宮崎港がなかったころのことを思い出してください。
- ・砂が足りないそうですが、一ツ瀬河口には有り余っています。お考えください。

## 8. その他、市民談義所の進め方等についてのご意見

- ・自治会etcを通じて友達に声掛けする努力もしてみます。
- ・生きている内に実感できる海岸を願います。
- ・周知の仕方...現在「海岸よろず相談だより」を発され自治会ではそれを住民が回覧していますが、直接国交省から話を聞くことの方が効果があがると思いますので自治会総会時に話をしてくださいようお願いします。
- ・ビーチクリーン、ウォーキングに参加している人に声をかける(関心は高いと思われる方たち)
- ・ダム堆砂のみでなく、河川を横断する堰の上流の堆砂をどうするか検討が必要で、地元の見解が大切となる。
- ・いろんな立場の方がいるといいですね、もっと(サーファーとか)
- ・大炊田浜海岸アカウミガメについて前回の談義の産卵が回復していないとの事で砂の質や砂の固さもあるという意味が理解納得。養浜の質に砂でなく土と土砂では産卵できなかった可能性大に納得。前年より本年の産卵が少なかった実態が判明。

# (1) アンケート結果と回答(1/2)

アンケート記載内容	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎港に貯留している土砂の量の経年変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去34年間(1983～2017年)の宮崎港の土砂堆積量は約490万<math>m^3</math>です。【p9参照】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成39年までの計画スケジュールを示してほしい。総合土砂管理、漁業者との話し合い状況等、具体的に説明して下さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明資料p10が事業全体スケジュールです。仔細については効果検証で皆さんと一緒に砂浜の回復状況等を確認しながら進めていきます。</li> <li>総合土砂管理および漁業者との話し合いについては鋭意進めている状況であり、方向性がみえてきた段階で報告します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然的な砂の供給(河川、海中)対策。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎海岸の侵食対策事業は説明資料p6に示すように、長期的には川からの供給土砂を活かしつつ、海域で土砂の移動を少なくする突堤により砂浜を維持する計画です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>突堤を計画通り完成するまで副作用を観測しながら施工することであるが想定されることも具体的に説明願います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期的には突堤の南側の侵食が進行することが想定されます。【p10参照】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>砂が北から南に移動するのが問題なので、すぐに突堤をテトラポットで三か所築いてもらいたい。(大炊田前、石崎前、シーガイア前)宮崎港がなかったころのことを思い出してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工中の突堤3基で浜幅50mを確保できる予測結果に基づき、事業を進めているところです。【p10参照】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>高波の防波について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浜幅50mを確保することにより、背後地への浸水を防ぎます。【p11参照】</li> </ul>

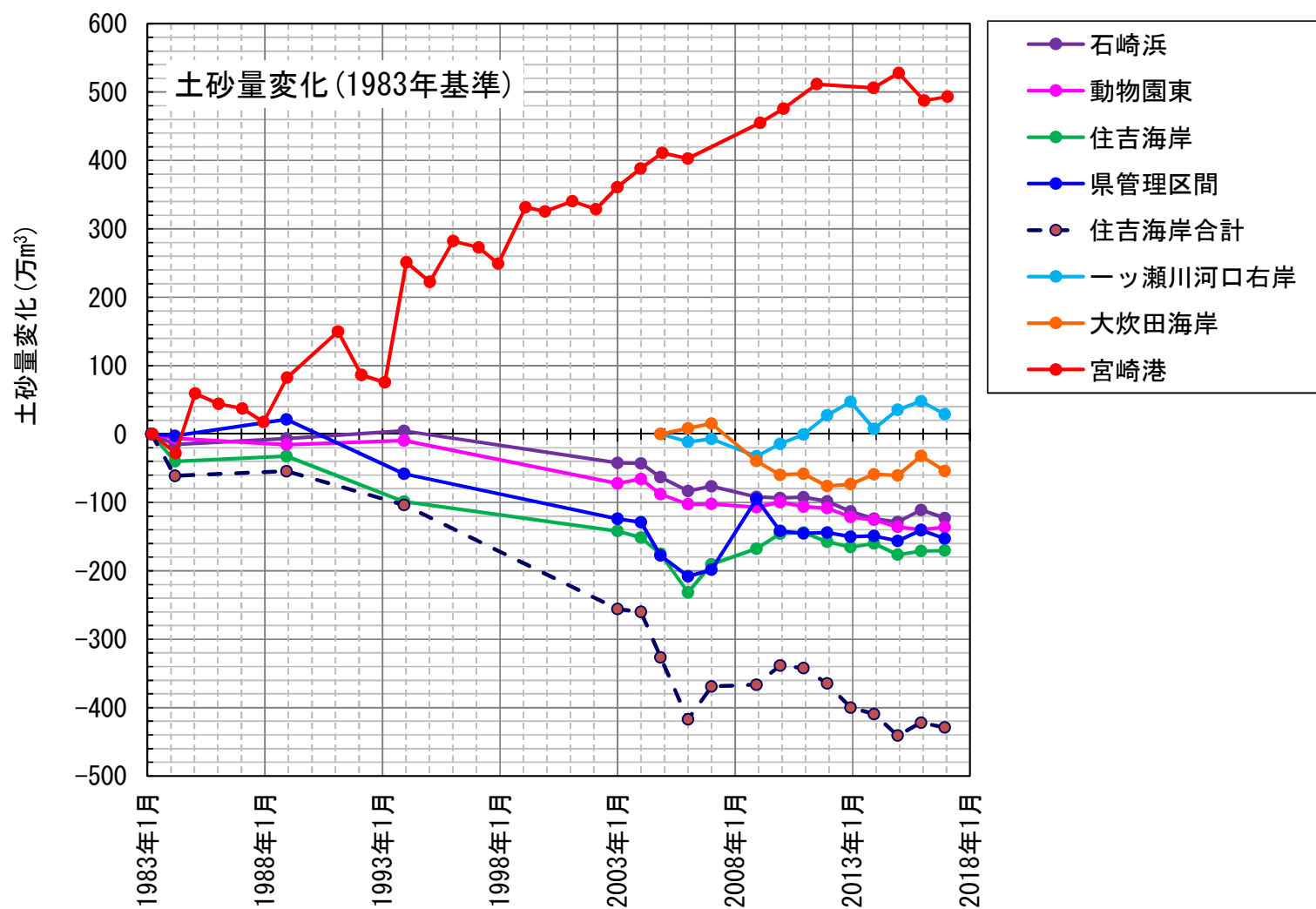
## (1) アンケート結果と回答 (2/2)

アンケート記載内容	事務局の回答
・宮崎海岸線、内陸の環境保全をどうするか。	・宮崎海岸保全の基本方針に従って保全していきます。 <b>【p12参照】</b>
・沖合(100m後)に海岸線と平行にテトラの設置は。	・離岸堤を設置した区間の陸側の砂浜は守られますが、周囲が侵食するため、全域に離岸堤を設置しなくてはなりません。 ・また、海岸全体に土砂が供給されないと離岸堤を設置しても砂浜は少しずつ減ります。
・砂が足りないそうですが、一ツ瀬河口には有り余っています。お考えください。	・一ツ瀬河口の土砂は現在も活用しています。平成29年度は8千 $m^3$ の土砂を利用しました。



## (2) 参考資料 ① 宮崎港の堆積土砂

・1983年3月～2017年2月の約34年間における宮崎港の土砂堆積量は約490万m<sup>3</sup>である。

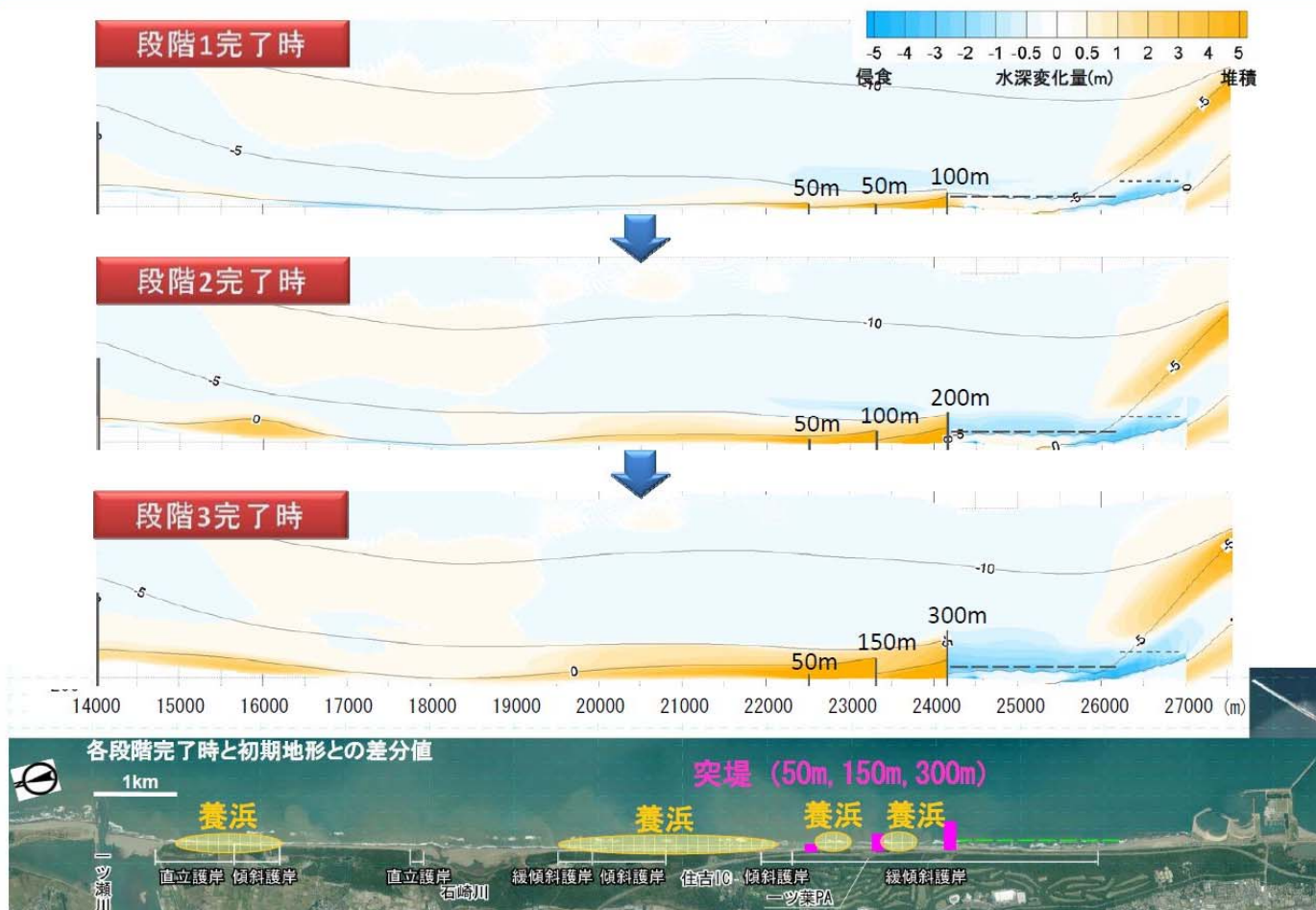


## (2) 参考資料 ② 突堤整備による影響について

・長期的には突堤の南側の侵食が進行することが想定されます。

### 段階的なシミュレーション結果(水深変化)

- 84 -



第6回技術分科会(H23.7開催)資料6-4より

## (2) 参考資料 ③高波浪に対応した海岸保全について

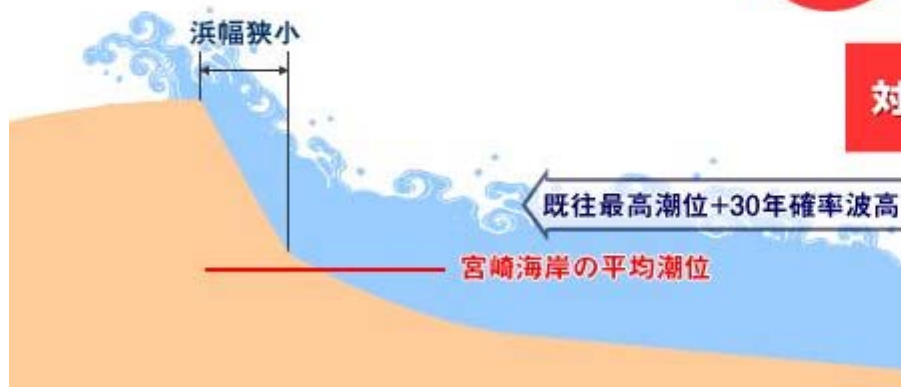
・長期的には突堤の南側の侵食が進行することが想定されます。

浜幅が狭いと波浪が減衰せずに護岸・浜崖に達し、その高さを越えて、背後地に越波が発生。

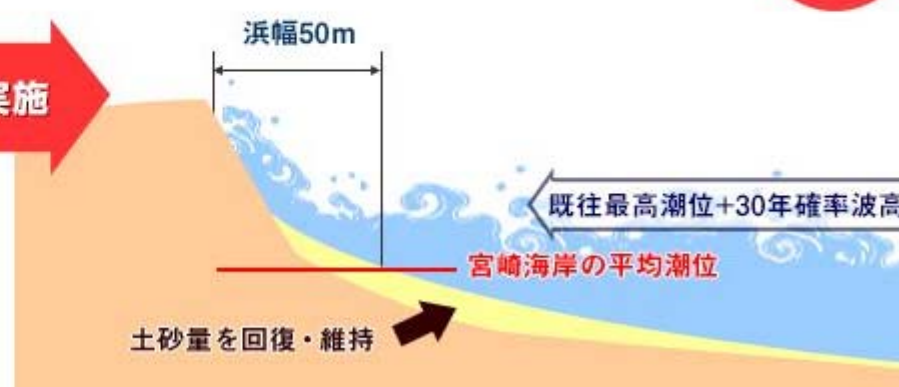
対策前

浜幅50mを確保すると波浪が減衰して護岸・浜崖に達し、護岸・浜崖の高さを越えず、背後地に越波は生じない。

対策後



対策実施



## (2) 参考資料 ④ 宮崎海岸保全の基本方針

### 宮崎海岸保全の基本方針

- 3 -

#### ◆目的

- ・海岸の環境や利用と調和を図りつつ、海岸侵食に脅かされる海岸背後地の人々の安全・安心を確保するとともに、国土を保全する。

#### ◆目標

- ・「背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止すること」を防護目標とし、そのために必要な「浜幅50mの確保」を達成することを目指す。
- ・現況汀線位置が浜幅50m以上である区域については、流砂系も含めた対策により、その保全・維持を目指す。

#### ◆考え方

- ・北からの流入土砂を増やすこと(機能①)、南への流出土砂を減らすこと(機能②)により、これまでに失われた宮崎海岸の土砂量を回復・維持し、砂浜を回復・維持する。
- ・急激な侵食の危険性がある区域において、浜崖の後退を抑制する(機能③)。

#### ◆配慮事項

- ・新たに設置するコンクリート構造物は出来るだけ減らす。
- ・それぞれの区域の特徴に応じたものとする。
- ・豊かな自然環境を最大限残す。
- ・美しい景観、漁業・サーフィン・散歩等の利用に配慮する。
- ・(直轄)工事完了後も維持管理に過剰な負担がかからないようにする。
- ・山、川、海における土砂の流れに出来るだけ連続性をもたせ、将来は自然の力による砂浜の回復・維持を目指して、様々な取り組みを行っていく。

ただし、その取り組みは時間がかかることから、当面は他事業とも連携した養浜を積極的に実施していく。

#### ◆事業の進め方

- ・今後もこれまでと同様、「宮崎海岸トライアングル」および「宮崎海岸ステップアップサイクル」の考え方に基づいて進めていく。

